

4 みんなと関わって

(2) 働くことの大切さを知って

P.130~135

4-(2)

働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。

1 この内容項目のページの特徴

働くことは、自分が生活する糧を得るだけでなく、集団や社会の中で自分に課せられた責任を果たすという意味もある。また、集団や社会の一員として、社会をよりよく発展させるため、自分の力を発揮したり、自己実現の一つとして取り組んだりすることで、社会に役立つ喜びを味わったり、帰属意識を高めたりすることもできる。こうしたことを踏まえて、本内容項目のページでは、集団や社会で活躍する人々の姿や思いを提示したり、また児童自身が、実際の生活の中での仕事について考えたり、将来に向けての展望や、家庭や地域での仕事の取組を書いたりすることができるようになっている。

一三〇・一三一ページは、各教科等で学んだことを生かしながら、社会に視野を広げ、働くことの意義や将来への展望について考えることができる内容になっている。また、一三二・一三三ページは、今の自分の生活の中でみんなのためにできることを、していることを考えることで、さらにできることを見付け、進んでそれに取り組んでいこうとする態度を育てていくような内容になっている。

2 活用のポイント

中学年の段階では、みんなのために働くことで役立つ

うれしさややりがい、成長を感じる経験を重ねることを通して、力を合わせて仕事をするこの大切さに気付く。進んで働くこうとする態度を育てることが大切である。働く経験などを通して感じた思いを、本内容項目のページを活用して振り返り、働くことの大切さを知って、進んでみんなのために働くこうとする態度へとつなげていくようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

一三〇・一三一ページでは、様々な仕事に就いている人々に関心を持ち、働くことの意義と大切さを考えることができる。

また、一三二・一三三ページでは、自らを振り返り、働くことの楽しさや喜びを確認することで、さらなる実践意欲に結び付けていくことができる。



P.130~131

事例

- ① 一三〇・一三一ページを見て、様々な仕事をする人々の思いを知り、働くことの大切さについて考える。
- ② 人物のコラムの人たちの仕事に対する思いから働くことの意義について話し合う。
- ③ 学校や学級及び家庭や地域での自分の仕事について、実際にやっていることを振り返り、一三二・一三三ページに記入する。
- ④ 一三二・一三三ページに書いた内容を発表し、意見交流する中で、働くことの喜びを見だし、次なる実践意欲につなげていく。

総合的な学習の時間

働くことや仕事について調べたり自分の将来を考えたりする学習の際に、一三〇・一三一ページを活用する。

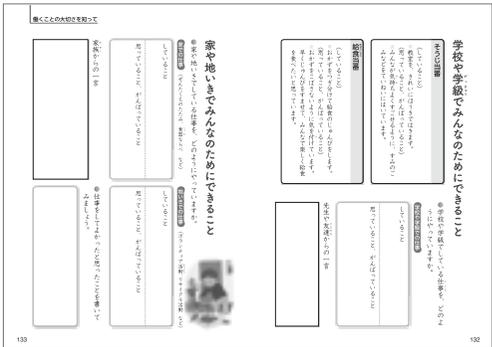
事例

- ① 一三〇・一三一ページを読んで、働く人々の思いを知る。掲載されている仕事以外にも、身近な人々にインタビューを行い、仕事をしているときの思いを聞く。
- ② 将来、自分が就きたい仕事を考える。その思いを一三〇ページに記入する。
- ③ 自分が就きたい仕事について、知りたいことなどの課題を明確にし、調べる課題を決めて、計画を立てて調べる。調べる際には、①の活動で行ったインタビューの情報などを生かしながら、本で調べたり、インタビューをしたりする。
- ④ 自分が将来就きたい仕事について調べたことを自分なりの方法でまとめて発表する。

特別活動（学級活動）

学級活動の「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」の指導に当たって一三二ページを活用することができる。

例えば、当番活動の様子を振り返って考える際に、自分の取組の中で心掛けていたりことや努力していることを一三二ページに記入した上で、よりよい取組方法を自分で決めて実践する活動も考えられる。また、係活動の内容や役割分担を考える際に、みんなの役に立つことは何か、自分ができることは何かを考えるためのきっかけとして一三〇から一三五ページを活用することもできる。



P.132~133

家庭との連携

保護者会などのときに、本内容項目のページを参考資料として読んでもらい、働くことについて家庭でも話をしてもらおうよう促す。

また、家庭や地域で児童が実際に取り組んでいる仕事について、一三二・一三三ページを見ながら話し合い、家の人から励ましや前向きな言葉掛けをもらうよう依頼することも考えられる。

4 みんなと関わって  
(3) 家族みんなで協力し合って

P.136~145

4-(3)

父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである身近な人々と協力し助け合う態度を身に付けることと関連の深い項目である。

一三六・一三七ページは、インタビュー形式で家族に誕生や小学校入学などの各場面での思いを聞くことにより、自分に対する家族の思いを知ることができるように工夫されている。それを受けて、一三八・一三九ページでは、自分の家族一人一人を見つめ直し、その家族一人一人への思いを書き記すことができる。さらに、一四〇・一四一ページでは、伝えようとする気持ちや家族の一員として役に立っていることを考えて整理し、その喜びを実感できるようにになっている。

これらのページから、家族との関わりを振り返って学習し、家族で協力し合って楽しい家庭をつくろうとする態度を養っていくことができる。

2 活用のポイント

中学年の発達の段階においては、父母や祖父母への敬愛の念を深めるとともに、家庭生活により積極的に関わろうとする態度を育てることが大切である。そのためには、自分が具体的に家族の役に立つことができ、家族に

喜ばれているという実感をもたせる必要がある。自分が家庭における重要な一員であるという自覚を深めることにより、協力し合って楽しい家庭をつくろうとする積極的な姿勢をもつことができるように指導することが大切である。

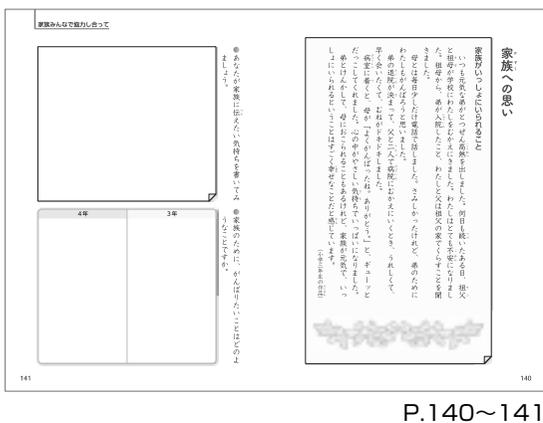
なお、多様な家族構成や家庭環境があることを踏まえ、十分配慮した指導を行うようにする。

3 活用場面例  
道徳の時間

一四〇ページの児童の作品「家族がいつしよにいられること」は、道徳の時間の中心的な資料として、家族への思いを振り返って考える際に活用することができる。

事例

① 家族は自分にとってどのような存在か話



P.140~141

- ① 「家族がいつしよにいられること」を読んで話し合う。
- ② 「家族がいつしよにいられること」を読んで話し合う。
- ③ 一四一ページを活用して、家族に伝えたい思いとともに自分が家族のために頑張りたいことを書く。

国語科

国語の内容「B 書くこと」の指導に当たって、家族を題材にして文章を書く際に活用することができる。

事例

- ① 「家族がいつしよにいられること」を読んで感想を話し合う。
- ② 自分の家族への思いを考え、家族に伝えたいことは何か、書くこうとすることの中心を考えて書く。
- ③ 書いた内容をグループで紹介し、伝えたいことが伝わるような書き方について話し合う。
- ④ 書いた内容を家の人にも紹介する。

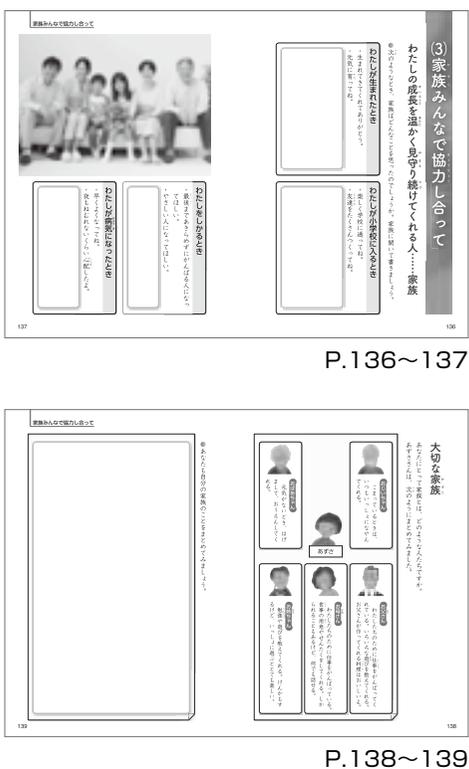
家庭との連携

一三六・一三七ページでは、それぞれの場面での家族の思いを聞いたり、一三八・一三九ページでは、家族からの思いを受けて、自分の家族一人一人への思いをまとめたりして、家族への敬愛の念を深める際に活用することができます。

また、授業参観等で本内容項目について学習した際は、授業後の保護者会等でも本内容項目のページを使って、家族との関わりについて話題にし、話し合うことができます。

- ① 一三六・一三七ページを読んで、家族に話を聞いてみようという意欲をもつ。
- ② 家庭で、それぞれの場面での家族の思いを聞いて、一三六・一三七ページに書く。
- ③ 家族の思いを聞いて感じたことを道徳の時間などで発表する。

事例 ①



P.136~137

P.138~139

事例 ②

- ① 一三八ページを読んで、自分の家族について振り返る。
- ② 自分の家族は、自分にとってどのような人か、家族のことをまとめる。
- ③ 書いたことを家庭で紹介し、家の人からコメントをもらう。
- ④ 家の人からの意見を道徳の時間などで発表する。

1 資料の特性

ブラッドレーは、家での手伝いや習い事の見返りに報酬を得たいと考え、母親に請求書を渡した。母は何も言わずに、請求書通りにお金を渡す。そこには、お金と一緒に、母からブラッドレーへの0ドルの請求書が添えられていた。

母から渡された請求書を通して、母親の優しさや無償の愛情に気付かせ、家族との関わりについて考えさせることができる資料である。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、ブラッドレーを自分自身に重ね合わせて考えさせるようにし、家族に世話をしてもらっていることを当たり前のように感じていたり、家族の一員としての役割分担を面倒がってやらなかったりする気持ちが自分の中にもあるのではないかと振り返って考えさせるようにする。また、ブラッドレーと母親の請求書の比較を通して、家族を支える母親の立場や思いに気付かせた上で、楽しい家庭をつくるということについて考えさせるようにしたい。

3 展開例

【ねじり】

家族の一員としての役割を理解し、家族みんなで協力

【主な学習】

- ① お金をもらうことができたとき、ブラッドレーはどのような気持ちだったか。
  - ・ 本当にお金がもらえてうれしいな。
  - ・ いつもお手伝いをしていてから、もらって当然だ。
- ② お母さんは、どのような思いで家事をしているのか。
  - ・ 家族みんなのために。
  - ・ 家族みんなが安心して生活できるように。
- ③ ブラッドレーは、どのような考えで家の手伝いをしてきたのか。
  - ・ 自分の仕事ではないけれど仕方がない。
  - ・ 手伝わたら小遣いももらえないかな。
- ④ お母さんがブラッドレーに0ドルの請求書を渡したのは、どのような思いからか。
  - ・ ブラッドレーのためにやっていることは、お金のためではない。親として当たり前のことを行っているのだと伝えたかった。
  - ・ 家族はみんな助け合うことが大切であることを分かっていた。
- ⑤ 二人の気持ちを比べて、どのようなことを思うか。
  - ・ 家での仕事などを何のためにどのような思いでやっているかについて二人の考えは違っている。
  - ・ ブラッドレーは、仕事をやってあげていると思っ
- ⑥ 家族のことを考えてしていることはどのようなことか。また、どのようなことを思っ

し合っ

事例①

ブラッドレーの思いを通して、家族の一員としての役割を果たすことについて考える展開

【主な学習】

- ① ブラッドレーは、どのようなことを考えながら請求書を書いたのか。
    - ・ 仕事をしたらお金をもらうのは当たり前だから、僕ももらってもいいはずだ。
    - ・ 僕だって忙しいんだ。お手伝いをしてあげているんだから、ごほうびをくれたっていいだろう。
  - ② 請求書を見てにっこりと笑って何も言わないお母さんを見て、ブラッドレーはどのように思ったか。
    - ・ やった、うまくいったぞ。
    - ・ いけないことをしちゃったかな。
  - ③ ブラッドレーは、どのような思いから「このお金は返します。」と言ったのか。
    - ・ 家族は助け合っ
    - ・ 僕も家族の役に立てることをするよ。
  - ④ 家族の一員として役に立てたことはあるか。
    - ・ 仕事から帰ってきたお父さんの肩をもんであげた。
    - ・ 夕飯の支度で忙しそうなお母さんの手伝いをした。
- 事例②
- ブラッドレーと母親の思いの対比を通して、家族で協力し合うことについて考える展開

四の視点 重点ページ

共に助け合っ

1 このページの特徴

本資料は盲導犬として尽くしたベルナの姿を通して、深い愛情をもって、互いに助け合っ

2 活用事例

道徳の時間

このページは、道徳の時間の中心

家庭との連携

家庭でもこのページを

4 みんなと関わって

(4) 協力し合って楽しい学校、学級を

P.148~157

4-(4)

先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。

1 この内容項目のページの特徴

学級や学校の様々なよい所に気づき、よりよい学級や学校にしていこうとする事は、毎日の学校生活を送る上で大切なことである。

一四八・一四九ページは、自分にとって学校がどのような所であるのかを書き込み、振り返ることができるよう構成されている。また、一五〇・一五一ページでは、自分の学級のためにどのようなことができるかを考えたり、学級の問題についてどのように解決すればよいかを話し合ったりする内容となっている。

これらを活用して、よりよい学校生活を送ろうとする態度を育んでいくことができる。

2 活用のポイント

中学年の段階では、楽しい学級を協力し合ってつくろうとする意欲をもつとともに、日々世話になっていく学校の人々にも意識を向け、支えられていると感じながらよりよい学校生活を送ることが求められている。

楽しい学級や学校は、自分たちでつくっていくものであるという自覚をもち、みんなが楽しく過ごすためには、どのようなことが大切なのかを考えていくようにする。

3 活用場面例

道徳の時間

一四八から一五三ページは、導入や自己の振り返りの場面での活用、また、中心的な資料としての活用など様々な活用が考えられる。

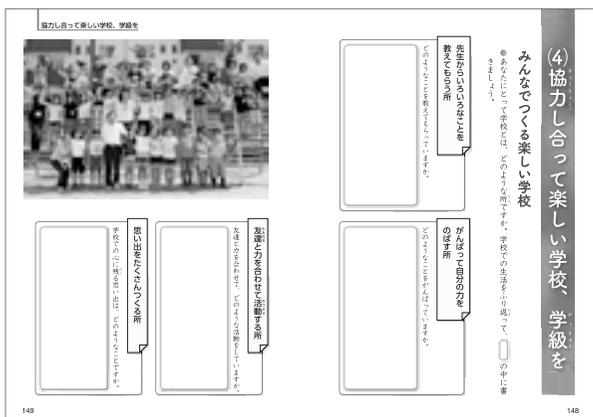
事例①

① 一四八・一四九ページの書き込み欄を活用し、学校とはどのような所なのかを考えて発表する。

② 読み物資料を読んで話し合う。

③ 自分たちの学校生活を振り返り、今よりもっと素敵な学校にするために、大切なことを発表する。

④ 学校で支えてくれる。



P.148~149

ている人たちの存在に気づき、よりよい学校生活を送っていこうとする意欲を高める。

事例②

① 自分たちの学級のよい所を発表し合う。

② 読み物資料「みんな待っているよ」を読んで話し合う。

③ 一五〇ページの書き込み欄を活用し、楽しい学級にするために自分たちが取り組んでいることについて振り返る。

事例③

① 一五二・一五三ページの「新記録を目指すぞ」を読む。

② 縄に引つ掛かることも多く、仲間を責めているときの気持ち話し合う。

③ 練習していくうちに、みんなが八字縄跳びを楽しんでいるようになってきたときの思いを話し合う。

④ 新記録が出たときの学級みんなの思いを話し合う。

⑤ 学級で協力していくためには、どのような気持ちが大切なのかを考え、発表する。



P.152~153

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」の「ウ 望ましい人間関係の形成」の指導に当たって、友達と仲よくし、違いを認め合うなどして、自主的、実践的に望ましい人間関係を築いていこうとする際に一五〇・一五一ページを活用できる。

また、「(1) 学級や学校の生活づくり」の指導に当たっても、望ましい人間関係を築こうとする態度を形成する際に活用することができる。

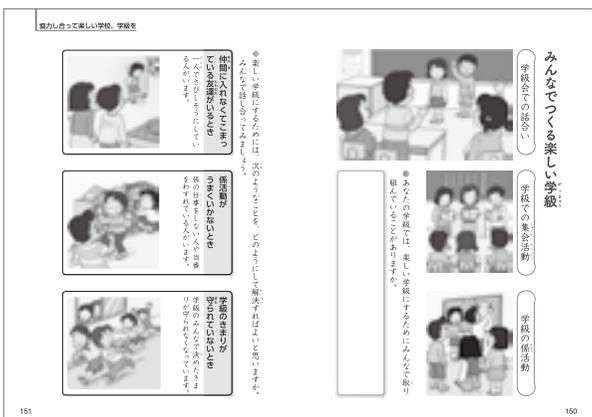
事例

① 自分の学級のよい所を考える。

② 一五〇ページの学級での様子を見ながら、楽しい学級にするために自分たちが取り組んでいることを書いて発表する。

③ 一五一ページの三つの場面について、どのように解決すればよいかを話し合う。

④ 今後、一層楽しい学級にするために自分がやってみようと思うことを決めて、実践する。



P.150~151

みんな待っているよ

P.154~157

4-(4)

1 資料の特性

入院したえみは、院内学級に通うことになった。始めは、三年三組のことを思い出し、元気がないえみだったが、院内学級のあさみから「みんな、友達だよ。」と声を掛けられ、ほっとした気持ちになる。手術の前日には、院内学級や三年三組の友達からのメッセージや手紙が届き、自分が先生や友達に支えられていることに気付いて、学級の一員としての自覚を深める。

院内学級や三年三組に対するえみの思いを考え、普段、当たり前に過ごしている学級での先生や友達との関わりを振り返って、協力し合って楽しい学級をつくらうとする態度を育てていくことができる資料である。

2 指導上の留意点

えみの不安感を解消してくれた三年三組や院内学級の友達の思いを考えさせる。そして、えみにとって学級の友達や先生とはどのような存在なのかを、児童の経験や生活を踏まえて考えさせるようにし、一層学級のよさを感じるることができるようにしていきたい。

3 展開例

【ねらい】

先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽



- みんな優しいな。私のことを考えてくれてるんだ。

- 院内学級も三年三組も私にとっては、どちらも大事な学級だ。

- 早く先生や友達に会いたいな。

⑤お父さんに「手術をがんばって、早く院内学級に行くよ。そして、早く退院して、三年三組に行くよ。」と言ったえみは、どのような気持ちだったか。

- みんなが応援してくれるから、自分も頑張ろう。早く元気になって、院内

学級や三年三組の友達に会いたい。  
 ・院内学級も、三年三組も、同じくらい大好きだよ。  
 ・院内学級の友達も、三年三組の友達も、みんな私を応援してくれる。私にとっては、両方、大切なクラスメイトだよ。

⑥学級での生活でいいなと思ったことを振り返る。

事例②

学級のことを振り返って、より楽しい学級をつくっていくことについて考える展開

しい学級をつくらうとする態度を育てる。

事例①

学級のよさや温かさについて考える展開

【主な学習】

①自分の学級のよい所はどこか。

- 男女の仲がよい。

- いつもみんなで遊んでいる。

- 困っている人がいたら、声を掛ける人が多い。

②院内学級に通うことになったえみは、どのような気持ちだったか。

- 行きたくないな。

- 早く三年三組に戻りたい。

- あさみは、どのような気持ちでえみに「みんな、友達だよ。」と言ったのか。

- 元気になってほしいな。

- 早く院内学級に慣れたい。

- これから仲よくしていきたい。

- これからの仲よくしていきたい。

- 早く院内学級に慣れたい。



【主な学習】

①学級とは、どのような所か。

- みんなで一緒に勉強したり遊んだりする所。

- 困っていたら助け合う仲間や、勉強を教えてくれる先生がいる所。

②院内学級や三年三組のみんなは、メッセージや絵、手紙をどのような思いを込めてえみに送ったのか。

- えみちゃんの喜ぶ顔が見たい。

- 同じ学級の仲間として励ましたい。

- みんな一緒に仲よく、学級で過ごしたい。早く元気になってほしい。

- えみは、どのような気持ちでえみに送ったのか。

- 早く先生や友達に会いたいな。



4 みんなと関わって

(5) きょうしつを愛する心をもって

P.158~163

4-(5)

郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。

1 この内容項目のページの特徴

郷土は、人格形成の基盤となる場であり、生涯を通じた心より所となるものである。そこで、郷土の伝統と文化に興味をもち、積極的に関わることを通して、郷土を愛する心を養い、郷土をよりよくしていこうとする態度を育てることが大切である。

一五八・一五九ページでは、あなたが生まれた所、住んでいる所がふるさとであると確認した上で、ふるさとのどのような所が好きかを考えさせ、ふるさとへの興味関心を高めることができる。そして、一六〇・一六一ページでは、他者にふるさとを紹介する視点でふるさとを見つめ、調べさせることでふるさとのことをより深く知り、愛着をもたせるようにしている。

さらに、一六二・一六三ページでは、ふるさとを愛した歌人、石川啄木を取り上げること、ふるさとへの思いに共感させ、郷土を愛する心を養っていくような構成になっている。

2 活用のポイント

中学年の段階では、生活範囲が広がり、祭りなどの地域の様々な行事に参加する機会も増えてくる。そのような機会を捉え、その前後で、本内容項目のページを活用することによって、児童の体験を生かしたより効果的な

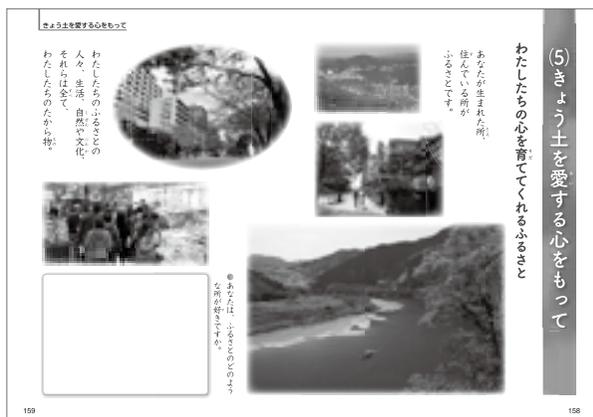
指導が期待できる。

3 活用場面例

道徳の時間

道徳の時間の導入において、ふるさとのどのような所が好きかを考えさせる際に、一五八・一五九ページを活用することができる。

また、自分のふるさとのことを振り返る際に一六〇ページを活用することができる。



P.158~159

事例①

- ① 一五八・一五九ページの写真や文章を参考に、自分のふるさとのどのような所が好きかを話し合う。
- ② 読み物資料を読んで話し合う。
- ③ ゲストティーチャーから、ふるさとのよさについての話を聞く。

できる。

事例

- ① 一六二ページの短歌について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をし、短歌に込められた啄木のふるさとに対する思いを話し合う。
- ② ふるさとをテーマに短歌を作り、一六三ページに記入する。
- ③ ふるさとをテーマにした他の短歌についても、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら、音読や暗唱をする。

■ 家庭や地域との連携

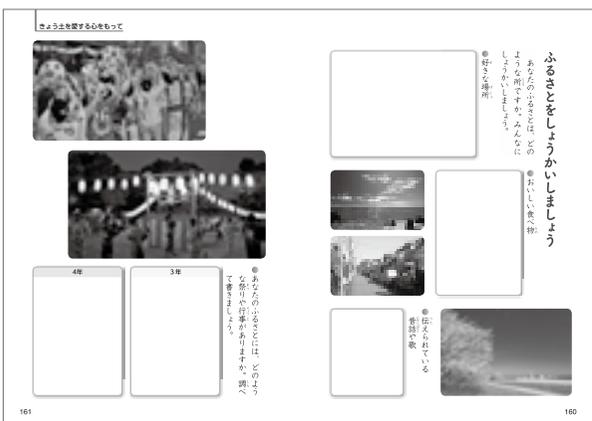
地域の祭りや行事に参加した出来事や、家の人と一緒に話し合っでもらうよう、学級通信等で家庭に依頼する。地域のひととの触れ合いの中で親しみが生まれ、その思いが郷土愛につながる。こうして活動の事前、事後に、一五八から一六三ページを家庭でも活用してもらおうよう促すことで、郷土への愛着を育てていくことができる。



P.162~163

事例②

- ④ 地域のよさを感じた経験について発表し合う。
- ⑤ ゲストティーチャーの話や友達の経験を聞いて、新たに発見したふるさとのよさや好きな所について一五九ページの書き込み欄に記入する。



P.160~161

■ 国語科

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「ア 伝統的な言語文化に関する事項」の「(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。」に関する指導と関連付けて一六二ページを活用することが

4 みんなと関わって

(6) 伝とうと文化を大切に

P.164~169

4-(6)

我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。

1 この内容項目のページの特徴

日本の伝統と文化を理解するに当たって、今もなお受け継がれているものよさや特徴、またそこに込められた思いを感じ取ることが大切である。  
一六四・一六五ページでは、日本の伝統と文化について「衣」「食」「住」の観点から考えることができるよう構成されている。また、一六六ページでは、四季を感じながら年中行事が行われていることについて考えることができる。  
それぞれの風土に培われた文化やそれを支える心があることに触れ、日本の伝統と文化についての思いを深めていく構成となっている。

2 活用のポイント

中学年の段階では、自分の国の伝統と文化、また、外国の人々や文化にも関心をもつことが大切である。そして、それらの国々を大切にしていこうとする気持ちへとつなげていく必要がある。  
「衣」「食」「住」という視点を通して、日本と外国の伝統や文化について考え、自然や風土の生かし方などに共通点や相違点があることに気付かせ、関心を高める。また、人物のコラムを活用して、日本と関係の深い人物

についても知り、日本にゆかりのある外国の人々などにも児童の関心を広げていくようにする。なお、これらのページは、国語科や社会科、音楽科などにおいて、日本の伝統や文化に関する学習をする際に、児童の興味関心を広げるきっかけとしても活用することができる。

3 活用場面例

道徳の時間

日本の伝統と文化について、自分たちの生活の中にはどのようなものがあるか、一六四・一六五ページを活用して考える。  
一六八・一六九ページの小泉八雲についてのコラムは、道徳の時間の中心的な資料としても活用できる。  
日本の伝統と文化



P.164~165

に魅了された外国の人物の思いを考えることで、改めて日本の伝統と文化に関心をもち、それらに親しむ心を育むことができる。小泉八雲の生き方を通して日本の魅力を再確認させていくようにしたい。

事例①

- ① 「日本と言えば……」に続く言葉を発表する。そして一六四・一六五ページを読んで日本のよさやイメージを考える。
- ② 読み物資料を読んで話し合う。
- ③ 一六五ページの書き込み欄に、他に思いつく日本の伝統や文化について記入する。
- ④ 長く受け継がれてきた日本の伝統や文化には、そこに込められた思いがあることを知る。

事例②

- ① 小泉八雲の著書など八雲に関することを知る。
- ② 八雲についてのコラムを読んで話し合う。  
○ 八雲は、なぜ、日本の全てに魅了されたのか。  
○ 八雲は、どのような考えで、日本にずっといようと思ったのか。
- ③ 八雲にそこまで思わせる日本のよさとは何か。  
○ 八雲以外に、日本にゆかりのある外国の人に関する話を聞く。

総合的な学習の時間

一六四から一六九ページは、日本の伝統と文化や、外

国の文化を対象とした学習を行う際に、自分でテーマを設定して探究していく学習活動の動機付けとして活用することができる。

また、一六四ページの和食や一六五ページの雑煮については、食育とも関連させて、和食のよさや地域の郷土料理、その文化的特徴や歴史的価値を追究する活動の手掛かりとしても活用できる。

家庭との連携

一六六ページを活用して、日本の年中行事について家庭で話題にしてもらうよう呼び掛ける。  
日本には、季節の風物詩があり、特に年末年始には、特有の伝統や文化による風習などが数多くある。家族と接する時間も多くなりやすい年末年始を利用するなど、依頼する時期についても工夫したい。



P.166~167

情報モラル

「コンピュータやけい帯電話などをどのように使えばよいのしょうか」

P.170~173

1 ページの特徴

一七〇から一七三ページでは、コンピュータや携帯電話などの情報機器をどのように使えばよいのか、具体的な場面を想定して、情報機器の使い方などを考える構成になっている。

情報化がもたらす問題について、なぜそれが問題なのか、どのようにして対処すればよいのかを考え、具体的に話し合うことなどを通じて、問題を解決しようとする力を育んでいくことができる。

2 活用のポイント

情報モラルについては、思いやりや礼儀、友人関係の問題、法やきまりの遵守などの様々な道徳の内容との関連が考えられる。そうした道徳の視点から、情報化がもたらす問題について考えさせるようにしたい。

なお、中学年の段階においては、コンピュータや携帯電話などに関する知識や情報機器の使用経験については、個人差があり、自分との関わりで考えたり、共通に話し合ったりすることが難しい場合もある。

そこで、情報機器の使用等に関する児童の知識や経験の程度を事前に把握したり、情報機器に関する説明を加えたりしながら、情報機器をめぐる問題について積極的に話し合わせ、問題を解決しようとする力を育んでいく

- ② 読み物資料「少しだけなら」を読んで話し合う。
- ③ 一七三ページの状況について、結果や対処方法などを考えて書き込み欄に記入し、グループで話し合う。
- ④ グループで話し合ったことを全体に紹介し、問題への対応としてどのような方法があるのか新たに気付いたことを発表する。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「イ 基本的な生活習慣の形成」の指導に当たって、一七一ページを活用することができる。

また、学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」の指導に当たって、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育成していこうとする際に、一七二・一七三ページを活用することができる。

事例 ①

- ① 夜更かしや朝寝坊など生活のリズムが崩れてしまったときの状況を思い出して話し合う。
- ② 一七一ページを読んで、このような問題が引き起こす結果や対処方法について話し合う。
- ③ 日常生活をチェックするためのワークシートに、リズムを整えて規則正しく生活するための自分の目標を決めて書き、実践する。

事例 ②

- ① 身の回りの危険についてどのようなことがあるのか話

ようにしたい。そして、これらを基に、情報を適切に扱う方法やルール、マナーを守り、相手を思いやり、発信に責任をもつことなどについて指導していくようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

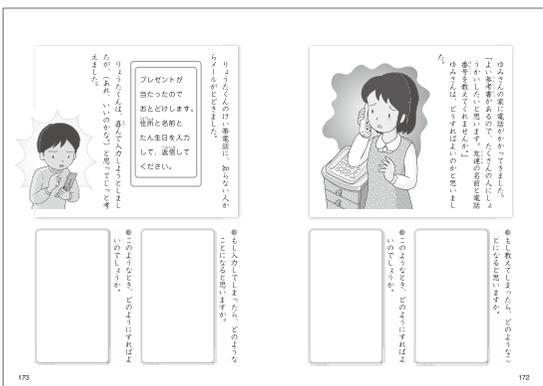
一七〇ページは、情報機器の利点や危険性、問題点などについて話し合う際に活用することができる。

また、一七一から一七三ページでは、節度やルール、マナーなどに関して、各場面においてなぜそれが問題なのか、問題がどのような結果につながるのか、問題を解決するためにどのように対処すればよいのかなどについて、具体的に考えることができる。

なお、指導に当たっては、取り上げる道徳の内容項目を意識して指導するようにする。

事例

- ① 一七〇ページの文章を読んだり、イラストを見たりして、コンピュータや携帯電話などの情報機器の利点や危険性、問題点を話し合う。



P.172~173

- ② 一七二・一七三ページを読んで、このような状況がどのような結果につながるのか、また、このようなとき、どのようにすればよいのかを考えて、書き込み欄に記入し、話し合う。
- ③ 情報機器をめぐる危険や問題点、危険を回避するための対応について、自分がやってみようと思う方法を決め、実践する。

家庭との連携

情報機器について、家の人と一緒に使い方を学んだり、使い方の約束事を決めたりする際に、一七〇から一七三ページを活用することができる。

事例

- ① 学級通信等で、情報モラルに関する学習状況を家庭に伝え、協力を依頼する。
- ② 家の人と一緒に、一七〇から一七三ページを読み、情報機器に関する様々な側面について話し合う。
- ③ 家庭で使用している情報機器について、使い方の約束事を話し合っ決めて決める。

日常生活

インターネットを利用して調べ学習などを行う際に、一七〇ページを読んで、情報機器の利点や危険性、問題点、また、情報機器の利用に関する約束事や守るべきことなどを話し合う。